



望洋荘便り



第 1 号
平成 15 年
12 月発行

介護老人福祉施設「望洋荘」開設

豊かな高齢社会（福祉社会）の実現を求めて



社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 渥

高齢化社会の急激な進行の中、二十一世紀は福祉（介護支援）の時代に入ったと言えるでしょう。誰もが、住み慣れた地域で「自分らしい、その人らしい」自立した普通の生活を、おくりたいと望んでいます。

社会福祉法人りんさく福祉会は、「生活を支える介護・人間らしく生きる介護」の時代に即応すべく、介護老人福祉施設 望洋荘 を開設しました。この施設は、「ユニットケア」という形式をとりいれ、プライベートへの配慮がなされた建物であります。少人数の構成による、家庭的な雰囲気のもと、「生活を共にしていくケア・一人一人の暮らしを支えるケア」を目指すものです。

科学技術は驚異的な発展をみせ、医学も同様に予防・治療方法も進歩しました。生活水準も上昇し、その結果、高齢化が進み多くの人達が八十歳、九十歳代の長寿を楽しむようになりました。単に長く生きるだけでなく、人間性を豊かに保ち、援けあい、お互いに輝き続けて欲しいものです。多少、生活技術や記憶に障害があっても、人として尊ばれる社会こそが豊かな高齢社会（福祉社会）といえるでしょう。



『望洋荘』正面玄関

介護老人福祉施設『望洋荘』

職員採用辞令交付式にあたって



施設長 吉田 裕子

私達は晴れて望洋荘の職員として、スタートラインに立ちました。ここで生活することになるお年寄の方々のお世話をする事が私達の仕事です。「お世話をしてやる」のではなく、「させて頂く」この気持ち大切です。相手を尊敬する事が大事なのです。が、何時の間にかそれを忘れてしまって、「お世話してやっている」になってしまっているのです。お年寄は、世話になつてゐるのだからと消極的になつてしまいます。でも、そつと「ごめんね」と謝つた時、優しくなれます。笑顔と優しさが介護の基本です。

不安がいつぱいで入所して来ます。その時は、手を取って、「いらつしやいませ。ようこそ」と言つて迎えましょう。言葉は、はつきりと相手の目をみてお話をしましょう。

さあスタートです。職員の皆さん、手をつなぎ、解らない事は教え合い、よい介護士になる様、たゆまぬ努力あるのみです。



『望洋荘』

多目的ホール（塩屋岬広場）

「望洋荘」開設記念

古今亭志ん橋師匠招き「いわき寄席」



古今亭志ん橋師匠を招いて、須田医院主催の「第八十三回いわき寄席」が、十一月二十五日にいわき市文化センター大ホールで開催されました。

このイベントは十二月一日に介護老人福祉施設「望洋荘」が開設することを記念し、行われたものです。

独演会を行った古今亭志ん橋師匠は、昭和十九年東京都墨田区生まれ。同四十四年に古今亭志ん朝に入門。同五十年二つ目、同五十七年真打ち昇進、六代目志ん橋を襲名。第一回にかん飛切落語会努力賞、国立演芸場花形若手演芸会新人賞では第一回銀賞、第二十五回金賞を受賞するなど幅広い活躍をしている方です。

多くの市民が会場につめかけ、師匠の噺しに聞き惚れ笑いの絶えない楽しい会でした。さらに祝いのしるしとして寄席踊りをも披露するなど落語世界の醍醐味をあげてくれました。

当日は施設のパンフレットを参会者全員に配布し「望洋荘」の開設趣旨を理解していただきました。

父の背中

須田 滉

歳を経ると妙に昔のことを懐かしく思い出す。このごろは何も言わずに黙々と働いていた父親の姿が殊更に浮かんでくる。特に早朝、囲炉裏の前で頼り甲斐のある背を見せてお茶をすすっていた姿が鮮明である。

その父も2、3回の一過性脳虚血発作を起こしているうちに、脳梗塞症を発症。半身不全麻痺となり病院に入院。機能回復の治療を続けるも、八十歳を超えて精神的にも変化が見られはじめ、子や孫の判別困難等の記憶や認知、判断に障害が生じた。兄夫婦の懸命な看護にも関わらず二年余後に他界。自分の少しは広くなった背中をまともに見せず仕舞いに……。そして今なお痴呆化した父の老後を病院で送らせた方が良かったのか、在宅が良かったのか、悩んでいるところである。

話は変わるが、「先生、もう私は賞味期限が切れちゃったので……」と語る患者さんがいる。賞味期限という例えが面白く、強く印象に残っている。人間の賞味期限を云々する積もりはないが、経験

を多く積んだ高齢者の方々は極めて味わい深いもの、示唆に富んだものを有している。この患者さんも書画に関して極めて造詣が深く、話を聴くたびに感じ入るものがある。しかし、連れ合いに先立たれ、家族との会話も殆どないために賞味期限のせりふが出てくるようだ。自分の存在感が薄れて行くことへの切ない思いが込められている言葉である。

明治生まれの父親が寝たきりになり、段々小さくなる背中をふいてもらいながら、惚けた頭で我々を観察していたように思えてならない。子供や孫達は何をして、何を考えて生きているのであるのかと。昔、父が囲炉裏端で家族にとつと語りかけてくれたように、老いた父親にゆっくり語りかけなかった事が悔いとして今も残っている。

痴呆予防の為に家族の会話、団欒が何よりも重要である事を是非再認識してほしい。介護保険（在宅介護）の上手な活用も一考に値するのでは。

医者目—福島民報
（健康欄への寄稿文から）



『望洋荘』 光明石の湯（温泉）
神経痛・腰痛・リュウマチ・肩こり・
冷え症等々に効力のある浴場も用意されています。

『望洋荘』施設の概要

法人名称 社会福祉法人 りんさく福祉会
 施設名称 介護老人福祉施設 望洋荘
 所在地 福島県いわき市 平豊間合磯三九番地
 居室状況 全体を六つの生活棟に分けたユニットケア個室方式
 介護老人福祉施設 (ホーム) 八十名
 併設型短期入所生活介護 (ショートステイ) 十名
 建物面積 介護老人福祉施設 参千五百八拾九・五平方メートル
 敷地面積 八千八百壹拾貳・九平方メートル
 建物構造 鉄筋コンクリート
 地上二階 一部地下一階
 職員構成 看護師・介護士・管理栄養士・社会福祉士・介護支援専門員・介護補助員・生活相談員・事務員 計四十六名

介護老人福祉施設 『望洋荘』 職員紹介①&コメント集



事務長 濱尾 榮男

昨年十二月四日、社会福祉法人りんさく福祉会が設立承認となり、十一月二十七日竣工記念式典・披露パーティ、十二月一日より介護老人福祉施設『望洋荘』が開所となりました。

入所される皆様、職員一同と共に海に見える太平洋を望み、美空ひばりの『みだれ髪』の塩屋崎灯台、山々の緑に囲まれた風光明媚な場所で環境の良い施設と共に新しいカラーを出して努力しながら、いわき市地域の皆様と一緒に歩んで参りたいと思います。



生活相談員 菅野 雅仁

私は、生活相談員として、望洋荘に入所される利用者の皆様やそのご家族様からのご相談を受けるのが、主な役割です。ですからちよつとした事でも、お気軽に声を掛けてください。皆様より信頼を得られるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

【介護保険一口メモ】

介護老人福祉施設「特別養護老人ホーム」

原則として六十五歳以上の患者で寝たきりや痴呆の状態にあるなど、常に介護を必要とする高齢者で、在宅で介護を受けることが困難な方に入所いただく施設です。

併設型短期入所生活介護(ショートステイ)

家庭で寝たきり等の状態にある高齢者を介護している方が、病気・冠婚葬祭・旅行・介護疲れ等の理由により介護できなくなった時、高齢者の方を一時的にお世話します。



編集後記

『望洋荘』便り

平成十五年十二月一日発行

発行所 いわき市

社会福祉法人 りんさく福祉会
 平豊間合磯三九番地
 介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
 FAX (0246) 55-7255